

「村人が見聞きした大地震の記録」

市史編さんだより (14)

9月1日は防災の日です。伊賀市でも死者約600人に及ぶ大きな被害を出した大地震がありました。嘉永7年(1854)6月に発生した「伊賀上野地震」です。市北部の木津川断層を震源とするこの地震は、当時の藩の記録『序事類編』や領内の武士、村々でも被害の様子などが記されていますが、今回は羽根村の中村久右衛門の記録を紹介します。

最初に地震があったのは13日昼頃で、午後2時頃に再び大きな揺れがあり、井戸が崩れる被害も出て、山鳴りや揺れが続いたので人々は不安になり、その日は夜明かしをしました。

14日は、山鳴りも少なくなり安心して夜自宅で寝ていたところ、15日未明の午前2時頃に大地震が発生しました。古い家屋や震源近くの家屋は瞬時に倒壊し、罹災した人々は数えきれないくらいでした。幸い中村家は家屋・住人ともに無事で、皆で屋敷の外の畑で夜を明かしました。上野の町では泣き叫ぶ老若男女の声が限りなく続き、家屋などの倒壊の音は響きわたり、その土煙により月の色もいつもと違って見えるほどでした。また、助かった人は下敷きになった人の泣き呼ぶ声を頼りに助け出しましたが、火事が発生した場所では救助できなかつたことなども書き留めています。

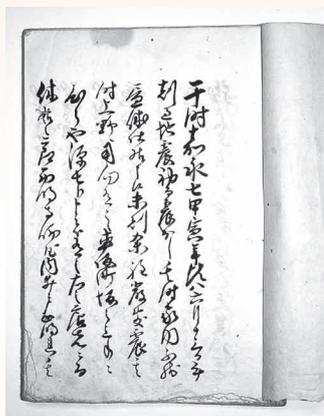
夜が明けて午前10時頃になると、余震も少し収まり、町では竹や古木を集め、空地や藪に仮小屋を設ける人々が現れ、地震後初めて家族が再会する場面もありました。

16・17日になると罹災者への救済米が支給され、倒壊家屋の復旧作業のために他所から千人を超える人々が上野に来るようになりまし。また、治安維持のための見廻りが始まり、津の御奉行様も出張してきて、扇の芝(現在の西小学校付近)に戦陣のように幕を張り、崩れた大手門の警備などにあたりました。

7月になつても余震は続きましたが、4日に城内の櫓の時太鼓が復旧、5日には上野天神宮の時の鐘が鳴るようになり、人々はようやく安心して、仮住まいしていた人も我が家へ戻るようになりました。

中村九右衛門の記録は、地震の被害だけでなく、その発生から罹災者の様子まで生々しく伝えています。

本庁総務課市史編さん係 電話 52・4380 FAX 52・4381



▲『大地震自他見聞書』
中村明彦氏所蔵



今シーズンに向けた思い!

背番号 2 DF
山口 絢子選手!!

リーグで戦いぬく難しさを感じましたが、チームの目標を達成するために絶対優勝したいと思います。



背番号 5 DF
池内 理紗選手!!

くノ一を支えてくださる地域の人たちに、感謝の気持ちをサッカーを通じて表現したいです。感動という形で☆



背番号 3 DF
庄子 菜摘選手!!

チーム関係者やファンの皆さん。たくさんの人に支えられている事に感謝して、日々全力でプレーします。



背番号 7 DF
村上 真理選手!!

昨年の悔しい思いと、チームを支えてくれる方々にお返し出来る様に、気持ちの伝わるプレーで戦い抜きたいと思えます。



背番号 4 DF
小野 鈴香選手!!

昨年はけがのためチームに迷惑をかけた分、今年は全身全霊で常に上を目指して戦い続けて優勝したい!!



背番号 8 MF
熊谷 さやか選手!!

1部昇格。そのために自分が出れることを最大限の力でやりきる。笑って、今シーズン終わってる!!

